

図書館の窓から



2014.4 No.144



栃尾の石仏「青面金剛」 鈴木 孝枝／手漉き和紙にプリント

【特集記事】

- ◆私の一冊 長岡戦災資料館運営ボランティア 金子 登美さん . . . 3p
- ◆中央図書館の館外活動を紹介 4・5p

館長通信

～ 所蔵資料の活用で長岡の魅力をPR！ ～

中央図書館は、7万点を超える郷土資料や貴重資料を所蔵しており、文書資料室所蔵の10万点の古文書類とあわせると約18万点に上ります。これらは、長岡のまちづくりの歩みや先人たちの足跡などがわかる貴重なものです。

一方で、これらの資料には地域を超え、人や歴史のつながりを示すものという側面もあります。昨年度は、東京都写真美術館・北海道立函館美術館・郡山市立美術館（明治期のガラス乾板）や富山市郷土博物館（羽柴秀吉書状）、諸

橋轍次記念館（北越戊辰戦争関連資料）、新潟県立歴史博物館（佐渡金山関連資料）などに資料を貸し出し、各館で地域性の高い展示会が開催されました。

今年度も岡山県立博物館（北越戊辰戦争関連資料）や茨城県の予科練平和祈念館（山本五十六資料）、新潟県立歴史博物館（反町文庫）、新潟市歴史博物館・新潟県立文書館（災害アーカイブ）に資料の貸出を予定しています。

各地で開催される展示会に中央図書館所蔵の資料が活用

されることは、長岡市の魅力を大勢の人たちに伝えることはもちろん、研究者による資料の再評価などが期待されます。そのため、可能な限り協力・連携していきたいと考えています。

市民の皆さんに、貴重な資料を後世に残すことの大切さを知ってもらい、取り組みも重要です。

そこで今年度は、エントランスでの資料展示や刊行物・ホームページでの紹介、講座の開催などを工夫し、より一層、長岡市の宝である所蔵資料の活用を図っていきたくと考えています。

（金垣 孝二）

文書資料室だより

中越大震災から10年 ～災害と復興をかたりつぐ～

災害の歴史は、古文書や和歌、石碑や言い伝えなど、様々なかたちで語り継がれてきました。東日本大震災の発生以降、これらを防災・減災の取り組みに活かしていく動きが広がっています。

『長岡市史』等の市町村史は、その土地土地に刻まれた災害の歴史を紹介しています。村を襲った早魃^{かんぼつ}と飢饉、城下町と町人町の火事、信濃川とその支流の魚野川・渋海川・刈谷田川等の水害、中山間地域の山崩れ・雪崩、海沿いの大風など、原始・古代から現代に至るまでの様々な災害と復興の歴史を叙述しています。また、様々な歴史資料から復元した地域の災害史年表や、災害にまつわる民俗行事・伝承なども取り上げられています。

長岡市内の各市町村史が独自の視点で、かつ積極的に災害と復興に関わる歴史を紹介していることに気付かされます。

今年は、平成16年に発生した新潟県中越大震災から10年目を迎えます。文書資料室では、講演会・展示会の開催、関連出版物の刊行を企画中です。テーマは、「災害と復興をかたりつぐ」。各市町村史の成果に学び、長岡市内の災害史を振り返ります。そして、先人たちはどのよ

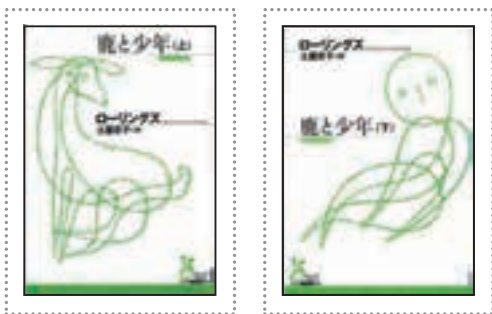
うにして復興を遂げてきたのかを探ります。あわせて、阪神・淡路大震災、東日本大震災の被災地の関係機関と連携して、中越大震災の経験・教訓を後世に伝えていきます。

詳細は、リニューアルした文書資料室のホームページや「長岡市政だより」などでお知らせします。「災害史に学び」、「災害と復興をかたりつぐ」。文書資料室の取り組みにご注目ください。（田中 洋史）



←長岡市資料整理ボランティアの活動

中越大震災以降、文書資料室と市民協働で郷土長岡の歴史資料を後世に伝える活動に取り組んでいます。募集案内、活動記録は、文書資料室のホームページをご覧ください。
<https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.html>



『鹿と少年(上・下)』 ローリングズ／著
土屋 京子／訳 光文社古典新訳文庫



私の一冊 私の一冊

長岡戦災資料館 運営ボランティア
金子 登美 さん

生意気な小娘の私は、その頃よく古本屋を渡り歩いていました。古い本の感触が好きだったからです。そこで見つけたのが、『イアリング』でした。昭和14年発行とありましたから、たぶん、日本の初刊です。戦争の年月を、この本はどこで過したのでしょうか。クリーム色の表紙の、小さな鹿を抱えている少年の姿が、私の心を捕えました。

『イアリング』は、『鹿と少年』の原題です。生後一年の小鹿のことなのですが、体は大きくなっても心はまだ子供です。思えば私は、自分にぴったりの本を買ったようです。

この物語は、140年ほど前、フロリダの奥地で狩と畑作をしていた開拓民の暮らしを、生き生きと描いています。ジョディ少年と小鹿のフラッグは、森の小さなせせらぎのようです。ある日、大きな川に出会って、うろたえ、あらがいますが、せせらぎは、自分もまた川の一部となり、流れるようになるのです。

小鹿のフラッグは、思いがけない事からジョディのところへ来ました。ジョディの父親が、ガラガラ蛇に噛まれた時、子連れの小鹿を撃って、その肝臓で傷口の毒を吸い取りました。彼のために死んだ小鹿の連れていた赤ん坊がフラッグです。一人っ子のジョディに「弟」が出来たのです。

森を駆け回り、一緒に眠り、体いっぱいジョディは小鹿を愛しましたが、一年後、残酷な別れが来ました。イアリングになったフラッグは、畑

の柵を軽々と越え、作物の苗を食べてしまうのです。いくら柵を高くしても同じ事でした。

開拓者の厳しい常識は、フラッグを撃ち殺す事です。ジョディは苦しまますが、泣きながら、ついに引金を引くと、家を飛び出しました。

飢えと孤独にうちひしがれ、ジョディは家に戻りましたが、もうフラッグはいません。それに、明日から彼は、体を痛めた父親に代って、家を支えて働くのです。淋しくとも、辛くとも、仕方がない。子供が大人になる時には、諦めというパスポートが要るのです。

この物語の終りを、私は繰返し読みました。『眠ろうとして、彼は「フラッグ」と呼んでみた。しかしそれは、彼の声ではなかった。「少年」の声であった。湧き水のくぼ地を越え、木蓮の向うに、樫の木の陰に、いずこかに、少年と小鹿は並んで走りつつ、永遠に消え去って行った。』— 読んでは涙ぐんだ小娘も、今は80歳、あの頃クリーム色だった本は、もう枯葉色になってしまいました。



文中で紹介された、金子さん愛蔵の『イアリング』。昭和14年に青年書房から発行された貴重なものです。



金子 登美 (かねこ・とみ)

昭和8年、長岡の料理屋「よし兼」(平瀧神社近く)に生まれる。昔風の料理屋に育った事と、6年生の時の空襲体験が今の生き方に大きく影響している。高校(現長岡大手高校)卒業後は、母の料理屋を手伝っていたが、昭和37年、大手通りに和食レストランを開店。

現在は、長岡空襲の語り部として長岡戦災資料館のボランティアに参加。長岡ペンクラブ会員。時々、昔の料理屋の物語を執筆。

金子さんは、WOWOWの連続ドラマ「私という運命について※」で、方言の指導をされました。

※3/23(日)午後10時から、毎日曜5回連続放映

館外活動を紹介します!

館外活動とは、中央図書館が図書館外で行っている活動のことです。普段図書館を利用される方には聞きなれない活動かもしれませんが、図書館から遠くにお住まいの方や、子どもたちのための活動が数多くあります。今回はそんな館外活動についてご紹介します。

●米百俵号での市内巡回

図書館から離れた地域を中心に、移動図書館「米百俵号」で市内各地を巡回し、本の貸出を行っています。年間5万冊以上の利用がある館外活動の主役です。

米百俵号にはオレンジ色の1号車と青色の2号車があり、大人向け子ども向け合わせて、約2千冊の本を載せて市内70ヶ所を巡回しています。バスにない本は、予約して次回巡回時にお持ちすることもできます。

その他、依頼に応じて小学校や保育園で読み聞かせを行っており、「楽しみにしています」という声を頂いています。



▲本を借りる児童で賑わう米百俵号車内。

●団体貸出

市内で活動する10名以上のグループ・団体に、中央図書館では最大200冊まで、地域図書館では100冊まで、本の貸出を行っています。専用書庫から自分で本を選ぶことができるため、好みやニーズに合ったものを借りる事ができます。貸出先では施設内のミニ図書館として活用されています。

●ブックスタート事業（子ども家庭課との連携）

赤ちゃんとお保護者に、絵本を介して心のふれあいを持ってもらう活動。長岡市では生後5～7ヶ月の赤ちゃんとお保護者の方を対象に、「赤ちゃん相談」の際に行っており、図書館職員やボランティアが、読み聞かせの実演と絵本のプレゼントをしています。また、貸出カードの発行や本の貸出も行っており、参加したお保護者の方から大変喜ばれています。



●ブックカーニバル（緑陰図書館）

夏休み期間の子どもたちの思い出作りや図書館利用・読書活動推進を目的として、市内の小学校や地域の施設に米百俵号で巡回する事業。50年以上の歴史があります。巡回先では、本の貸出のほか、絵本やパネルシアターを使ったおはなし会、工作や科学実験などを行っています。

平成25年度は3日間で6ヶ所を巡回し、300人を超える小学生が来てくれました。



▲科学実験で大人気のスライム作り。

●ちびっこ広場 まちなか絵本館（子ども家庭課との連携）

毎週火曜日と日曜日に、図書館司書がまちなか絵本館で活動しています。蔵書の管理や、テーマコーナーの作成、絵本の読み聞かせ、工作イベント、本に関する様々な相談等を行っています。

どのような絵本を選べば良いか迷った際や、読み聞かせのコツを知りたいというような時には、お気軽にお尋ねください。

※まちなか絵本館は、大手通りにある司書と保育士のいる子育て支援施設です。



▲毎日行われているイベント「おはなしでてこい」



▲世界で1冊だけの本を親子で作るイベント「絵本のたね」

米百俵号の巡回を行っていない市内の小学校に対して次の事業を行っています。

●学校巡回

児童数が200名以下の小学校を米百俵号で巡回し、本の貸出と読み聞かせを行います。約2千冊の児童書を満載し、貸出冊数は毎年1万冊を超えています。

●学校配本

学校巡回を実施していない小学校で、希望があった学校に年2回、本の貸出を行っています。本は、学年や季節に合わせ、職員が1冊1冊選んでいます。年間で4万冊以上が、校内の学級文庫として利用されています。

●出張おはなし会

保育園・小中学校・子育てサークル等からの依頼に応じて、読み聞かせやブックトーク、絵本講座を行います。子育てサークルではお母さんが赤ちゃんを膝に乗せて手遊びをしたり、和やかな雰囲気の中でおはなし会を行っています。小学校では、職員による本の紹介に、子どもたちは目を輝かせて聞き入っています。いずれも、子どもたちと本を結ぶ、図書館の重要な業務と考えています。おはなし会をご希望の際には、市内各図書館までお問い合わせください。



▲館外活動に使用する移動図書館。

「米百俵号1号車（左）・2号車（右）」

所蔵資料紹介 No.140 小林虎三郎 書 七言絶句

米百俵の故事で有名な小林虎三郎（1828～77）は、青年期江戸で佐久間象山に入門し、蘭学や兵学等を学び象山の信頼を得ます。その後、幕府に横浜開港の提言をした罪で、長岡での謹慎生活を余儀なくされ、求志洞と名付けた居宅で、長年病気や孤独に悩みながらも自学の道を歩みます。

北越戊辰戦争により長岡の人々は甚大な被害を受け、暮らしは困窮します。虎三郎は、戦争という愚かな行為を繰り返さないためには、子どもの頃から学ぶことが大切だと考えました。これが国漢学校の設立に向かい、長岡の教育の礎となり三島億二郎へと引き継がれます。

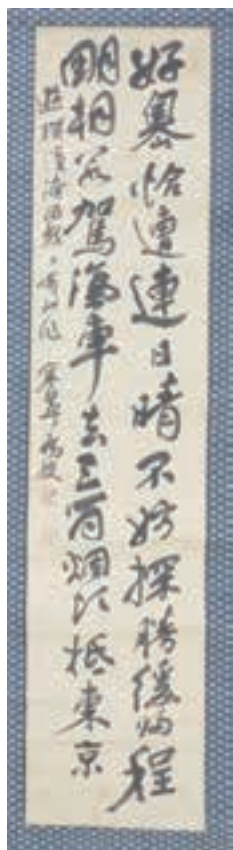
明治4年、虎三郎は生まれ育った長岡を出て、東京の弟雄七郎の元へ行き、療養しながら『小学国史』等の執筆活動を行いました。

活気ある横浜港を訪れた虎三郎は、かつて黒船を見てからの我が人生を回想し、詩作します。「横浜は港に適した所だ 何日も続いた晴天のおかげで、ゆっくり観光できた 明日には駕籠か汽車に乗り、ここを去る 筒から煙をはきながら汽車は東京へと至るだろう」

明治5年に初めて蒸気機関車がイギリスから到着しました。その眩しい姿を目にして、新しい時代の幕開けを感じたことでしょう。生涯、病を共にし、煩悶する詩が多い中で、この書は筆の運びも伸びやかで、開放的な明るい印象を感じます。

晩年の虎三郎の心情を、私たちも辿ることができるのです。

（小熊 よしみ）



好畧恰遭連日晴
不妨探勝緩歸程
明朝若駕汽車去
立筒煙頭抵東京

遊横浜淹留數日有此作
寒翠 病叟 印

畧（港）恰も好し、連日晴に遭う
探勝を妨げず、帰程を緩める
明朝駕籠か汽車にて去る
立筒より煙頭をはき東京に抵（至）る

横浜で遊び數日淹留し此作を有す
寒翠 病叟 印（小林虎）（炳文）

越後文学さんぽ ～新潟出身の著者をクローズアップ～

松岡 譲（まつおか・ゆずる）（1891－1969）

明治24年9月28日、古志郡石坂村（現長岡市村松町）本覚寺の長男として生まれた。東京帝国大学在学中に作家活動を始め、『新思潮』の発刊に関わる。芥川龍之介らの紹介で夏目漱石の門人となり、漱石の長女筆子と結婚。小説『破船』のモデル問題で久米正雄と確執を生じ、一時文壇から離れた。代表作『法城を護る人々』、『憂鬱な愛人』等を出版。戦時中に長岡に戻り、漱石に関する執筆を行った。昭和44年、悠久山の山荘で没した。エッセイスト半藤末利子は松岡の四女。その夫が半藤一利。

参考：『講談社日本人名大辞典』講談社、『長岡歴史事典』長岡市



『敦煌物語 新版』
松岡 譲／著 平凡社

『敦煌物語』の初版は昭和18年に発行されています。その初版に大幅に加筆した昭和36年版、そしてさらに改行やルビを加え地名等を改めて平成15年に発行されたのが、今回紹介する小説です。

小さな博物館の老主人が「私」に話して聞かせる、二十世紀初頭の中国、敦煌の千仏洞の宝物獲得をめぐるイギリス・フランス・日本の探検隊の物語です。特に、現代の三蔵法師を名をのる各隊長の活躍に、ぐんぐんと引き込まれていきます。実在の人物が元になっていることを考えると、日本隊の隊長がまだ十代後半の青年であり、これほどの探検を成し遂げたことに感動を覚えます。漢詩や地名、仏教用語などがかなり出てきますが、漢字のルビも多く、若い人たちにも安心して楽しんでいただける1冊です。

（徳永 馨）

花 *—flower—*



『れんげ野原のまんなかで』森谷 明子／著 東京創元社

舞台はススキ野原の真ん中に建つ、秋葉市立秋葉図書館。ここに勤める図書館司書が、周りで起こる小さな事件を解決していきます。レンゲソウの花言葉には「悲しみをやわらげる」という言葉があります。最終章では、この花言葉を連想させるような人の心の温かさに触れることができます。(古田島 亜衣)



『超ビギナーのための「花」のラッピングバイブル』角川マガジンス

春になると、ちょっとした贈り物をする機会が増えてきます。そんなときに花束を贈ってみてはいかがでしょうか。「照れくさい」「どうやったらいいの」と思うあなたに、花を包むヒントと楽しみ方をやさしく教えてくれる本です。手順や準備する物など、写真が豊富でわかりやすく解説されています。

(高橋 真弓)



『赤毛のアン・夢紀行：魅惑のプリンス・エドワード島』NHK取材班ほか／著 日本放送出版協会

アンが初めてプリンス・エドワード島にやってきたのは6月のはじめです。桜やリンゴの花が同時に咲く、この島がいちばん美しく色鮮やかな季節です。この本は、成長していくアンとともにこの美しい島で暮らしているような気持ちになれる1冊です。

(矢野 直美)



『武市の夢の庭』さとうち 藍／文 関戸 勇／写真 小学館

北海道・滝上町に暮らす高橋武市さん。花を生涯の友とした彼は、厳しい環境の中でも植物たちが自らの力で生きていける庭を夢見て、何年もかけて独力で豊かな花園を築き上げました。信念と情熱に満ちた武市さんの半生は、それ自体がまるで大輪の花のように輝いています。

(尾木 茜)



『小さな花の教科書』佐々木 じゅんこ／著 グラフィック社

目を楽しませ、香りで癒してくれる「花」。さりげない一輪が、パッと雰囲気明るくしてくれることがありますよね。必要なのは、6つのルールと少しのお花。カジュアルに花を楽しみたい方におすすめの1冊です。

(熊倉 弘美)

イベントガイド（4月～6月） ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

- 4/25(金) 『秘密』東野 圭吾／著
 5/23(金) 『まほろ駅前多田便利軒』三浦しをん／著
 6/27(金) 『夏の花』原 民喜／著

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

- 4/1(火) 「グッモーエビアン！」（2012年 日本）106分
 4/19(土) シェークスピア生誕 450年 13:00～
 「劇団四季ハムレット」（2008年 日本）174分
 5/14(水) 「炭鉱（ヤマ）に生きる」（2004年 日本）70分
 6/13(金) 「一命」（2011年 日本）127分
 6/28(土) 「オーケストラ・リハーサル」
 （1978年 イタリア・ドイツ）70分

【文化講座】 中央図書館2階 講堂 14:00～15:30

- 4/27(日) 「知っておきたい！相続と税金のはなし」
 専門家を招き、わかりやすくお話を伺います。
 講師：金融広報アドバイザー 税理士 市村二三代さん
 定員：先着180人
 申込：4/8(火) から、窓口・電話・ホームページで受付

【子ども読書活動推進計画関連事業】「図書ボラをはじめよう！」

- 中央図書館2階 講座室1 10:00～11:30
 【2回連続講座】当館司書がお話します。
 5/17(土) ①「楽しい学校図書館とは」
 6/7(土) ②「学校図書館の整備」
 定員：先着25人 申込：4/22(火) から、窓口・電話で受付

【文書資料室 連携事業】新潟市歴史博物館みなとぴあ 企画展

「新潟地震展」(仮称) 6/14(土)～8/24(日)
 中越大震災関連資料も展示予定。

※詳細は新潟市歴史博物館にお問い合わせください。TEL.025-225-6111

市内図書館と栃尾美術館の休館日

中央図書館	☎32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日（土日祝と重なった場合は開館） 特別図書整理期間 年末年始
互尊文庫	☎35-7981	
西地域図書館	☎27-4900	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
南地域図書館	☎30-3501	年末年始
北地域図書館	☎22-7100	
中之島地域図書館	☎61-2165	
寺泊地域図書館	☎75-5159	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	☎0256- 97-2497	年末年始
栃尾地域図書館	☎53-3005	
文書資料室	☎36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	☎53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり 年末年始

図書館ニュース

★エコ・ブックスフェアのお知らせ★

中央図書館では、内容が時代に合わなくなってしまう、長い間に傷んでしまったなどの理由で除籍した本を、無料でお譲りするエコ・ブックスフェアを開催します。ぜひご利用ください。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

エコ・ブックスフェア2014

- 期日：平成26年6月8日(日)
 会場：中央図書館2階 美術センター
 時間：午前9時30分～午後3時
 ※本が無くなりしだい終了します。
 提供冊数：児童書・一般・実用等
 約10,000冊（予定）
 利用冊数：1人20冊まで
 共催：図書館友の会「なりふ」

重要 入場整理券を事前に配布します！

- 配布日時：6月1日(日) 午前9時30分～
 配布場所：中央図書館 屋外正面入口付近
 配布枚数：450枚（先着）
 ※入場整理券の受取には、貸出カードが必要です。
 ※貸出カードを紛失した方・まだお持ちでない方は、事前にお作りください。
 ※貸出カード1枚につき、入場整理券1枚を配布。
 ※貸出カードをお忘れの方には、配布できません。



ECO
BOOKS

◆◆◆ あとがき ◆◆◆

待ちに待った春の到来。図書館にも明るい日差しが降り注ぐ季節となりました。この春から新生活がスタートする方も多いかと思えます。外に出かけるもよし、新しいことにチャレンジするもよし、活動的なこの季節を楽しんでみませんか。(K)

平成26年4月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住所 長岡市学校町1-2-2

編集員 長瀬 貴子 諏佐 志保 河田 利美
高橋 知香 高橋 真弓

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 株式会社 北越時報社